

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、運営者と細部にわたり話し合い、理念を、実行に移すべく、入居者一人ひとりを、尊重し支援している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎日唱和し全員で実行に向かい努力しており、毎月の介護目標はじめプランに理念が生きるよう努めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々へのふれ合いの機会を多く取り入れ、又、家族への毎月の通信や「癒しの家たより」を地域の方々に配布するなど理解して頂けるように努めている。	癒しの家の「癒し」を、心から感じてもらえるよう、日々の業務に心がけている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	4月～9月までは、外でもお茶会を行い、道行く人達にも、一緒に参加して頂けるように努めている。	外でのお茶会は、近隣の方にも気軽に立ち寄り事が出来、利用者の方にも、喜ばれる。取立ての野菜を、頂く事も有る。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の清掃活動、防災訓練にも、積極的に参加している。又、祭り、敬老会、文化祭等にも参加し、入居者の方々も喜んでる。	菅原神社の祭礼では、子供神輿や、獅子なども、ホームの玄関まで来るので、太鼓を叩いたり、獅子に触ったり、子供達と会話も出来、入居者と地域の人達と積極的に、関わりを持つように、努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年1回、講師を招き、地域の人達、職員を対象に講演会を行い、認知症に対する、理解を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は毎年、職員が分担しながら作成している。全体的な理解を図って行くため、分担する範囲は毎年変えられている。改善事項は全員で改善に取り組んで、より良いホームを目指し改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会会長、民生委員、町内会長、地域包括支援センター、市議会議員、利用者、家族代表、行政職員を委員とし2ヶ月に1回開催しているホームの事業や状況報告に加え、検案事項等の解消につながる意見交換に重点を置いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上越市の評価委員の研修の場として提供し、共にサービスの向上に取り組むと共に、市主催の老人会、フェスタ等に参加し、入居者が地域に馴染んで暮らせるよう連携している。		引き続き市の担当者と連携を密にし、地域と共にサービスの向上に努めていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について管理者、職員を研修に参加させ、内容を全員に普及すると共に、利用者の状態を勘案し、活用出来るよう支援している。		新潟県社会福祉士会よりパンフ等もいただき学習し、より理解を深める為、引き続き職員等を研修に参加させたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関する研修会を年間研修計画に毎年組み込んでおり、学習の場を通じて職員に徹底すると共に、講師による職員研修を実施し意識の向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書は、前もって自宅にお送りし納得出来るよう読んでいただき、再度ホームに来ていただき管理者が補足説明や疑問点について理解していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>認知症ではあるが、毎日の日常生活を送る中で不安、不穏を言葉で気持ちを伝える事が難しい人が多いが、利用者様の行動、様子を敏感に受け止め運営に反映させるよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の金銭管理報告に合わせて、利用者様の日常の暮らしぶりや行事での写真を添えて報告していると共に、健康状態は、状態変化や受診の都度に、報告をしている。又、年4回の会報誌等もお送りしている。</p>	<p>ホーム内でのお誕生会や行事など、利用者様の楽しそうな様子を写真にし、ご家族に送っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護計画の同意を得る際には、プラン等の送付時や面会時、運営推進会議、毎月の各人へのお便り等でそれらの機会を設けている。</p>	<p>入居前、家庭で入浴拒否をされ月に数回しか入浴されていなかった利用者も今では入浴を楽しみにしている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月例検討会、毎日朝礼時のミーティング、モニタリング会議等で職員の意見を多く出し合っていて運営にも生かされている。又、サービス向上に特に顕著な提案等には報償制度を取り入れるなど反映させている。</p>	<p>今後も多くの意見を出して頂き、施設の質の向上を目指したい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の体調不良、通院、又行事、ドライブ時の外食、買い物等、その他職員や家族の体調など勤務調整を必要とする場合はスムーズに行われている。</p>	<p>昼間の職員数は、基準より1名多く、夜間も2交代の夜勤体制で入居者、職員共、柔軟なサービスの確保が可能となっている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を維持するための、職員の異動は極力避けている、異動等の職員も時々訪ねて来られ、系列の異動先などもドライブで行き来するなど、利用者のダメージは無いと考えられる。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルは作成し、それを基本としている、又、ISOとの係わりもあり見直しはされている。</p>	<p>マニュアルが、整備されている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、ケアマネジャー、介護福祉士等、受験への配慮、看護師やその他防災関係の学習会を計画的に実施。 町外への研修等も、順番的に参加するよう、全体的に参加出来るようにしている。	運営者は、教育には力を注いでいる。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を主催し、他の事業所にも声かけし、広く勉強会を開き、ネットワークづくりに努めている。又、相互の訪問実習にも協力的に進めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼休みに、職員が悩み等も、気軽に話す機会を作るように管理者は心がけ、運営者にも悩み等は相談にのってもらっている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得時、勤務期間、職務等により昇給を実施し、運営者は職員の向上心を大切に、平素の努力の労をねぎらっている。	サービス向上のための発案等には報奨金等も実施している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	はじめに利用者本人様や家族に見学をしていただき、疑問点などを確認し納得した上で選定していただく、又、ホーム側からもケアマネが訪問し家庭での今までの生活や、不安な事、望んでいる事をお聞きし、安心して生活が送れるように努める。	職員は内部研修やミーティング時は、傾聴や寄り添える介護を目指し話し合っている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の思いを尊重しつつ、家族への訪問、又、気軽に相談に来ていただいたり、担当の居宅のケアマネジャーからも広く家族の思いや不安を共有するように努めている。	休日、夜間など相談は全く問われずに家族の都合に合わせてるようにしている。又場合によっては訪問して信頼関係をつくるよう努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时、又、ホーム側からの訪問調査時には、本人、家族の介護支援の必要性とどの様なサービスの利用が適しているか等必ず居宅のケアマネジャーや相談員やホームの看護師などに広く意見を聞き、支援の見極めをしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みの際には、実際、事業所に来て見学をもらってから、入所の判断をしてもらっている。利用者には、契約書など、前もって送付し、疑問点は、来所時に説明をし、理解して頂けるように努めている。		利用者が慣れるまで、家族と一緒に泊まるケースもある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	軽作業、野菜、キノコ、クルミ、山菜などの下ごしらえや、雑巾縫いなど、一緒にしながら、昔の生活場面が、思い出されるように努めている。又、苦労話にも耳を傾け、労を、ねぎらっている。		昔ながらの作り方等を、職員は、出来る限り学び、尊敬の念を持つようにしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	精神面において、利用者は家族を最も頼っている事を、理解して頂き、本人とこれまでどうりの関わりを、お願いし、家族面会時は、居心地良く過ごされるよう細部の気配りのもと接待している。		年1回5施設合同で家族交流会を実施している。利用者、職員で、下ごしらえしたゼンマイ、竹の子の料理等を楽しみにしており、大満足して召し上がっている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	気軽に来家して頂き、お茶や漬物等を用意し家族が、来られた時、御本人をまじえ日常生活の中での役割やすばらしい点など話しお互い認め合えるチャンスを作っている。		家族の希望される場所を提供している。居室、ホール、食堂、座敷など家族の要望にも応じている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの周りは畑があり、そこで働いている人、そして保育園や小学校の園児、児童などとは、散歩のときや訪問時に楽しく交流を深めている。時々訪れる花屋さんをはじめ出入りの方々と馴染みの交流をしている。		チラシでゴミ箱を作り、保育園に利用者が届け感謝されている。その他文化祭、運動会、敬老会等にも参加して馴染みの関係を深めている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事、お茶会やレクリエーション等を通し、居室にこもる事をさげ、家庭の雰囲気にならぶよう、楽しく、親しく、お互い支え合えるように努めている。		夕食後、3時間程度、食堂でお茶会をし、思い出話や、紙芝居、職員のクラリネット演奏など楽しまれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用期間中に利用者、家族との馴れ親しい関係が続け、退去後も、お互いに行き来しており、家族の方の紹介で当ホームを利用される方もいる。		退去された後も、職員が訪問し、又、家族とも電話等で近況を教えてもらっている。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントや本人、家族、その他関係者から聞き取り等によって、利用者の希望、意向を把握している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の中にも有るように入居者の今まで過ごしてこられた生活を把握し、入居者、家族の意向に沿う様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、朝のラジオ体操、リハビリ体操をして心身状態をチェックして、天気の良い日は、散歩を取り入れ、職員のミーティング時、前日の出来事や一日の過ごし方を話し合い、一人ひとりを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の気持ちに添い穏やかな気分で過ごして頂く為に、本人は勿論の事、家族、居宅の担当ケアマネジャーと話し合いを密にし、センター方式で、本人、家族の言葉に出てこない点も見落とす事の無い様、チーム一丸となり、利用者本位の計画に努めている。		今後も、言葉には出ない心の内面的な事を把握出来、本人が、より良く暮らせるための努力をしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末にモニタリング会議を行い、又、毎朝個々の状態について話し合いを持ち、本人様の状態変化に伴う計画内容の検討や、本人、家族との話し合いにより、新たな意向を考慮し、計画の作成をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、看護記録、介護記録、経過表など日々の様子を記録し、スタッフ全員で情報を共有し、介護計画等の見直しに活かしている。		夜間と昼間の様子を話し合いを、持つ事や、連絡帳の閲覧により、情報の共有を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を取り込む事に努め、個別性を大切にしたり、多機能性を、取り入れた支援をしている。		今後も多機能性を活かし、個別性を大切にしたいケアをしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域でより良く、安心して暮らし続けるためには、地域の民生委員ボランティア、警察、消防、自治会、隣組、学校、保育園、区、地域の住民等と連携を持ち、協力させて頂きながら支援している。		開設7年目を迎え、広く地域の方々と親しく協働感も育まれている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域連絡推進会議にも他のケアマネジャーからも参加して頂き、本人の必要性に応じ、広くサービスを受けられるようにしている。		今後も本人の意向に沿うよう、当ホームのみにとらわれず、他のサービス事業者とも連絡を取りながら進めたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身近な存在として、必要に応じ、権利擁護の相談もして頂き、各種相談なども協働させて頂いている。		地域包括支援センターとは、お互い密に連絡を取り合い、今後も良い関係を続けていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に添い主治医を決めて頂いており、医師と事業所の関係は良好であり、定期的な往診を含め医療体制が整っている。		かかりつけ医には身体面のみならず、精神的な悩み等の、相談にも協力して頂いている。又、職員のレベルアップの為にもアドバイスを頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の専門医の協力病院があり、定期的に受診している。医師は職員の相談に応じてくれており、家族にも詳しい病状説明など対応して下さる。		専門医は協力的で良い関係にあり、指導も取り入れて下さっている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	3ヶ所巡回しているが、すぐ連絡の取れる、常勤の看護師がおり、日常の健康管理、医師との連絡、通院、服薬等の医療活動を行っている。		相談時は、昼夜兼行で、いつでも駆けつけて対応してくれている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	環境の変化は、本人の不穏の素となる一つであるが、入院生活における、これらの事態からも、出来るだけ早期退院が出来るよう、医療機関、ホームの看護師、職員等も連携し、努力している。		入院期間中も、2ヶ月間は、居室をそのままにし、退院を待つ契約をしているので、家族も不安なく、適格な医療を受ける様になされている。又、退院時期は医師との連絡を密にしている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、主治医にホームの看護師が終末期の方針を話し合い、職員全員がその方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望をお聞きし、事業所で可能と不可能を医師と話し合い、医師を中心にチームとしての支援体制を組み、可能なかぎり対処出来るように努めている。		介護度4の重度化の利用者も入っているが家族の希望、医師の見解を仰ぎながら、看護師、職員がチームで対応している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、家族や他のケア関係者と面会し、詳細なる情報交換を行い、本人の住み替えによるダメージを出来る限り最小限に抑える事が出来るように、努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳は人として最も重要な事と職員全員で認識し、言葉使いや接し方や、プライバシーに気を付け十分に配慮している。又、記録等にも留意し管理者も気を付け確認している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>生活歴や認知の進行状態を把握し、言葉だけの表出にとらわれず、表情や心の動きからも御自身の希望や求めている何かを知るように努め、意とすることへの決定に導くようにしている。</p>	<p>ドライブや外出の計画時、行き先の選択、外食の好み、又は、日常の食事の希望、入浴時の湯の温度、日常の過ごし方、買い物、洋服等の選定など、あらゆる場面で利用者が選べるよう支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>センター方式を用い、各人一人一人の以前の生活歴を知り、その人らしく、その人に添った日々を送っていただけるよう何事も、まず、御自身の希望をお聞きし、又職員間の朝のミーティング時に確認しあっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個性を尊重し、髪型、衣服、身だしなみなど、おしゃれを楽しまれるよう支援し、美容も各人が長年行きつけた店に行かれており、理容等も髪の長さなど御自身の希望を聞き取り入れている。</p>	<p>メイクの美容師から来家して頂き、おしゃれを楽しむ機会を得る事が出来、それを写真に撮り予想以上の好評を得ている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の下ごしらえや準備又は時には煮物なども作っていただき、各人の好みなど聞き入れ日々期待に答えるように心がけている、職員が同じ献立と一緒に食べる事により、各人の好みの確認もできる。又、片付け、米とぎなど日々協力していただいている。</p>	<p>食後の片付けや米とぎをして頂いた後は必ず感謝の言葉かけや、コーヒーなど好みの飲み物をお礼にお出しし労うよう心がけている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>牛乳や養命酒など各人の好みの物を、それぞれ飲んでいただいている、食間での家族からの果物やお菓子なども食事に影響の無い程度に居室にお持ちして食べていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを職員全員が周知できるよう排泄表の記入により、時間帯を把握し適時な誘導をさりげなく支援している、又、失禁者には、適温の蒸し清拭布を用いて、清潔に心がけている。		1ヶ月の排泄表が一覧となっているため、排便の確認も出来る為便秘状況を把握できる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、くつろげる時間帯を選ぶようにし、湯温、湯舟に入っている時間、リフト浴により安心しての入浴、湯花の使用、職員と一対一のコミュニケーション作りなど、楽しめるよう支援している。		入居前、家庭で入浴拒否をされ月に数回しか入浴されていなかった利用者も今では入浴を楽しみにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活歴、生活習慣、現在の状態等を考慮し、入居者が安心して、快い暮らしが出来るよう、職員の対応を含めた環境作りに努めている。		以前の家庭での生活をセンター方式を使用し知る事により生活のリズム等をつかんでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の出来る機能を考慮し、積極的に参加できるように支援している。食器洗い、テーブル、お盆拭き、洗濯物たたみ、各自、担当場所の掃除などの役割を持って頂き、生き甲斐が持てるよう取り組み、楽しく過ごして頂けるように支援している。		お手伝いや役割など協力して頂いた時は、職員は必ず労いの言葉がけや、お茶など飲んでいただき感謝の意を表す。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者には、お金を持って頂き、買い物に出かける時は、ご自身で好きな物を選んで購入できるよう支援している、又、お金に関心のない人にも買い物には、サイフを持って頂き支払いは自分でやって頂くよう支援している。		社会で生きていく中で、お金への意識も大切と考え、職員は、その様な認識の上で接している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、努めて散歩に出かけ、地域の人達とのふれ合い、喜びを感じて頂く。畑の野菜の収穫のお手伝い、又、季節に応じての毎月のドライブや地域の行事には積極的に参加している。		代表者がドライブ用のバスを購入され、社会参加を積極的に推進している。 又、戸外に出る事により精神的安定も図る事が出来る。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者、家族より 利用者様の行きたい所をお聞きして外出の支援をしている。 毎月のドライブの際には努めて利用者様の自宅等をまわると共に実家の墓参り、敬老会、歌や踊りの発表会、文化祭、地域の祭りなどの参加を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話や手紙の希望にはすぐ対応している、又、ご自分で、手紙の書く事が困難な利用者には、職員が代筆し、プライバシーに配慮して各自の居室や事務室等で対応し、ご家族等への連絡を支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも面会して頂けるよう態勢を整え、面会時には各自居室で、お茶・お菓子・漬け物など提供し、ゆっくりとお話して頂けるように努めている。又、希望されるご家族には、宿泊して頂く様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、利用者のどんな行動においても制限しないことを徹底しており、毎年身体拘束をしないケアのための研修会を行いながら、自由を保障したケアに取り組んでいる、テキストは厚生労働省発刊の「身体拘束ゼロの手引き」等を使用している。		薬での拘束にも留意し、夜間不眠時への対応のため睡眠薬等の使用は、開設以来一度も使用していない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けなくて開放して、出入りは自由にしてある、玄関戸にはセンサーが設置してあり、安全の確認の把握を可能にしている、入居者は朝のお参りをしたり、玄関のプランターの花を見たり、玄関の広場でお茶を飲んだりされている。		玄関の鍵は、開設当初から昼間は絶対掛けていない。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当日勤務職員に入居者の担当を決め、その日の状態把握に責任を分担し、常に全員を意識しながらの分担であり、職員の位置や業務の状況によって、連絡・連携を図りながら行動するようにしている、利用者の生活リズムや希望を尊重しつつ適時に確認を実施し安全に配慮している。		個人の生活リズムを尊重しているが、努めて談話室に来て団欒をしていただく事により所在や様子を把握している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の状態把握に努め、管理可能な利用者には自分で管理していただき、自分で管理できない利用者には必要の都度職員が見守りながら使用していただき、危険防止に努めている。		共有の注意が必要な物品の所在については毎日確認を実施し、朝のミーティング時に報告し保管・管理に万全を期す。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の介護マニュアルを作成しリスクを明確にし、歩行補助具の使用と見守り、キザミ食、トロミ剤の使用や服薬には個々の名前を記入し誤薬防止に努めるとともに、月2回の防火訓練を実施し事故防止に努めている。		入浴、トイレ介助等見守りが必要な入居者については必ず見守りを実施し、状態を把握し事故防止に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職場の見やすい場所に緊急対処マニュアルを掲示、全職員に周知するとともに、防災訓練時に救急法の反復教育を実施している。また、誤嚥、窒息等の防止のため検討会等の場を通じて教育徹底している。		月2回の防災訓練を実施(通報・救急・避難・消火)4種目に区分し取り組んでおり、今後も継続していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し昼夜の対応等も考慮し、これに基づき職員・入居者が防災管理者が計画した月2回の訓練を実施している。又、地域防災活動へ参加するとともに、災害時避難等に支援が得られるよう組織化されている。		地域の防災訓練に参加し連携を取り近所の方々からも入居者の状態や、顔見知りの関係作りに努め、協力を得られるようにしている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対策として、入居者1人1人のマニュアルを作成し対応している。又、家族の面会時に体調やリスク面も説明させていただき家族との共有に努め理解を得ている。		毎年3月の医師会による健康診断結果。毎月2回の主治医の往診結果など速やかに本人や家族に説明し職員も個々の状態を把握し、リスク等を避けるように努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝体調確認(顔色・目のかがやき・表情・体の動き・食欲・行動・言葉等)し、異変時にはバイタルを看護師、医師に連絡指示を仰いで対処するとともに、職員には軽度の体調変化でもミーティング、連絡帳等で全員に周知し対応している。		体調変化の早期発見のため ・看護師の定期的健康チェック(週1~2回) ・医師の月2回の往診 ・職員の週1回のバイタルチェック・食事量チェック(毎回) ・排泄チェック・入浴チェック
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、全職員が入居者の服薬の効能、副作用、飲み方、量について理解している。誤薬、飲み忘れ等無いようすると共に症状の変化についても確認している。		年数回、皆で確認している。また、服薬種類の変更時には朝のミーティング時に周知したり、連絡帳で連絡している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や体に及ぼす重大な影響について理解しており、飲食物、特に水分と野菜に重点をおき、十分な水分と野菜が摂取できるよう支援するとともに、改善が困難な場合は医師と相談している。また、運動にも留意し、散歩を日課に入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの歯磨きの介助や見守りをしている、又、1日2~3回イソジンでうがいをしている。		口腔衛生は自立されている人はおらず、全員何らかの介助をさせてもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は命と考え、朝、昼、夕食とも4皿を提供し、手作りを基本としているため、バランスが大変良く、食材も減農薬で自家製野菜を使用、食事量や調理も1人ひとり状態(キザミ食、トロミ剤)に対応し調整している、水分量は1日1,500cc~1,800ccとしている。		食事は年齢的に昔から慣れ親しんだ食事を心がけ、フライパン料理や揚げ物(天ぷらは除く)は避け、味噌汁なども煮干しを使用、味噌は地場の防腐剤抜き品の品を使用し、安心できる食材と年代にあった食事内容に心がけている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策はマニュアルを作成し、まず外からの菌の進入防止に心がけ、職員の手洗いの励行に努めている、入居者には手洗い、うがい、部屋の換気に留意し清潔な環境を整え、床、手摺り等には薬品を使用し除菌に努めている。		インフルエンザの予防注射は、利用者、職員共全員が接種し予防に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、調理台等直接口に入る事の無い物には塩素剤で消毒(行政からのマニュアル使用) 食器類は食器乾燥機で熱風乾燥、食材は定期的に冷蔵庫等の日付の確認をし、新鮮で安全な品を使用している。		定期的に冷蔵庫掃除を塩素系薬品で実施している。また、各ホームを管理栄養士が衛生管理について注意点などマニュアルに添って講習を進めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にテーブル、ベンチを置き、近所の人達も気軽に入居者とお茶会や談話が出来るようにし、プランターには、昔から慣れ親しんだ草花を植え、又、玄関に入ると昔懐かしい家庭的な雰囲気の残る調度品を置き、気軽に入りやすいように努めている。		来客者や、家族の方が訪問された時、玄関に入っただけで、温もりを感じると言われている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ゆっくり居心地良く過ごしていただきたく、日々の生活やドライブの写真、季節感を感じる装飾、入居者の作品を掲示、又畑には、自家野菜を植え、収穫の参加など、家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先、廊下などにソファーやベンチを置き、趣味の部屋にはソファーを置き、気のあった利用者様が自由に過ごしたり、友達と語らいの時の居場所作りを職員は心がけている。		仲の良い友達同士の同席に心がけ、また、利用者の個々の性格等を見て安心した場づくりに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の写真、亡き夫や子息などの写真と、毎朝お水やお花を飾ったり、観音様のお顔拭き、お花の水替えなど家庭に近い日常生活を送れるよう努めている。		家族の思い出の写真や故郷の写真を持参していただき居室に掲示している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は眠る位置やイスに掛けているとき、空調の吹き出し口があたることのないようにし、室内は温度計や湿度計を使い適切な温度で過ごしていただけるようにしている。尚朝の掃除には窓を開け換気に努めている。		特に居室の温度、湿度に注意し夏は28℃、冬は25℃を心がけ、湿度調整は軽易な容器等を利用し工夫している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を防止する為、廊下、傾斜の所は手摺、お風呂場では手摺と手引きで、安全の確認をしている。シルバーカーや、歩行器など使用して、自立した生活が送られるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者、その人の可能な事を探し、ゴミ箱作りや、雑巾差しなどをして頂き意欲を持って暮らせる様工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭でお茶飲みや談話などをして楽しまれて居る。又、玄関のプランターには季節の花を植え楽しまれて居る。		前のポーチをはじめ、ホームの周りの畑には、いつも季節の花々が咲き、居宅や、玄関も花の絶える様な事は無い。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1 個々への尊厳や、その人らしく生きていただくための援助

2 地域に開かれたホームを目指す

住み慣れた地域や自然の中で地域と繋がりを持ちながら、豊かな人間関係を育みながら穏やかに過ごす。

実施例として (1)地域の奉仕活動への参加 (2)防災訓練への参加 (3)お茶飲み等は外へ出て玄関で近所の人も含め行う。

(4)散歩は毎日の日課とし、保育園の園児や近所の人々とのふれ合いを大切にしている (5)個人のニーズに合わせ地区の行事への積極的参加やドライブ

3 「癒しの家としての「癒し」を目指す

ホーム名に癒しを掲げている以上入居者、家族、その他全ての関わりを持つ人達から、ホームに来られた時どこか「ホット」する心地よさ。

「ゆっくり昼寝でもしたい」「将来私も、こんな所で生活したい」と思われる癒される心の通った施設に近づけるように努力している。

4 自然を豊富に取り入れた食材を使用した美味しい食事内容(無農薬で作る自家野菜も共に)

利用者が昔から慣れ親しんできた食材を職員が採取し、又、手づくりし、利用者に食べてもらっている。

春：ウド、ゼンマイ、アツキ菜、ワラビ、コシアブラ、コゴメ、ウド菜、モミジ菜、行者ニンニク、姫筍、ミツ葉、フキ立菜、フキノトウ、フキなど

秋：キノコ類全般、手づくりキムチ、マコモダケなど

海産物：手づくりのイクラ漬け、エゴなど

米：地元の減農薬米、

味噌：地元の防腐剤なしの味噌

出し汁：日本海の煮干し